

な るほど その16 本願寺

本願寺の歴史 パート2

大谷廟堂の留守職は、覚信尼さまの後に覚恵(かくえ)上人、その次に孫の覚如(かくにょ)上人が第3代に就任した。覚如上人は三代伝持(さんだいでんじ)の血脈を明らかにして本願寺を中心に門弟の集結を図った。三代伝持の血脈とは、浄土真宗の教えは、法然聖人から親鸞聖人へ、そして聖人の孫の如信(によしん)上人へと伝えられたのであって、覚如上人はその如信上人から教えを相伝したのであるから、法門の上からも留守職の上からも、親鸞聖人を正しく継承するのは覚如上人であることを明らかにしたものである。

本願寺の名前は、元亨元年(1321年)ころに公称し、覚如上人の晩年から次の善如(ぜんにょ)上人にかけて親鸞聖人の影像の横に阿弥陀仏像を堂内に安置した。これを御影堂(ごえいどう)と阿弥陀堂(あみだどう)の両堂に別置するのは、第7代の存如(ぞんにょ)上人のときである。5間四面の御影堂を北に、4間四面の阿弥陀堂を南に並置して建てられた。(次号に続く)



親鸞・如信・覚如三上人像(重文)

住職レター

猛暑だった夏がウソのように、ここ数日、凌ぎやすくなりました。「暑さ寒さも彼岸まで……」ですね。お彼岸のこの時期、ちょうど太陽が真東から昇り、真西に沈みます。古より、命が終わり還る場所は、太陽が沈んでいく、彼の岸(彼岸)と云われてきました。西方浄土を追慕して、先だつて逝つたお方を、お偲びするのが、お彼岸です。

お彼岸だからでしょうか、本願寺からの御案内状にて、「すべてのご家庭に阿弥陀様を」と題したリーフレットが送られてきました。

真宗門徒の方々は、家にお仏壇がご安置されているのは普通の事で、当たり前の環境で育って来られたことでしょう。しかし昨今は、家にお仏壇の無い家庭が多くなりました。「えっ……?」と思われるかもしれませんが、息子さんが家を新築され、その家にお仏壇はありますか?

最近では、マンションや現代様式の家にもマツチする、モダンで小さなお仏壇が多く有りますから、ぜひ、「すべてのご家庭に阿弥陀様を」のお気持ちで伝えて下さいね。



小型のお仏壇「いちじょう」きく